

要 旨

広島県廿日市市在住
原告 森本 道人

私は廿日市市に住む、森本道人と申します。本日は意見陳述の貴重な機会を与えて頂きまして、ありがとうございます。

現在、私は35歳で3人の娘の父親です。仕事は化学メーカーのプラント機械技術職をしております。最初に原発に疑問を持ち、原発を止めなければならないと思ったきっかけを申し上げます。

2011年3月11日、東日本大震災が発生したとき、私は千葉の市原工場に出張中でした。プラント緊急停止によるサイレンが鳴り響き、配管などは大きく揺れ、高さ60mを越す煙突も横揺れして倒れてくるのではないかと恐怖を感じました。出張最終日であったこともあり、すぐに帰宅するように指示がでましたが、電車や高速バスなど全ての交通機関が停止していたので、宿泊していたホテルに泊まることにしました。ロビーで手続きを終え、ロビーのテレビで地震や津波の状況を観ている時に突然の爆発音と衝撃波が襲いました。外に出てみるとコスモ石油の工場が激しく燃えていました。その日は時折聞こえる爆発音、テレビや携帯から鳴る緊急地震速報、体を感じる余震が何度も起こり、寝ることはできませんでした。

翌3月12日、広島に帰ろうとしましたが交通機関は十分に復旧しておらず、電車が復旧している駅まで歩いて向かいました。被害状況などを知ろうと携帯でニュースを確認していると、原発の燃料棒が溶けた恐れがあるという情報を知りました。チェルノブイリ原発事故のことが頭をよぎり、最悪の場合どうなってしまうのかをウィキペディアで調べました。私が原発について調べたのは、この時が最初です。350km圏内でも健康被害があったことを知り、今自分がいる関東も危ないと恐怖を感じました。しかし、大きな原発事故は起こらないだろうと心の底では思っていました。それは、一人のエンジニアとして日本の技術力や原発の安全神話を信じて生きてきたからでしょう。

また大きな地震が起きるのではないかと不安を持ちながら、広島に戻る為に東京駅から新幹線に乗りました。新幹線の中でニュースを確認していると福島第一原発の1号機が爆発したというニュースを知り、頭が真っ白になりました。

地震と津波、それに追い打ちをかけるような原発の爆発。これは現実なのだろうか
かと冷静さを完全に失い、この国は壊滅してしまうのではと考えていました。

広島に帰ってきてからは、地震、震災の状況もですが、特に刻一刻と変化する
原発の状況が気になり、仕事が手につきませんでした。1号機に続き、3号機の
爆発が発生し、避難地域が広がる状況を見て、原発や放射能についての疑問を持
ち始めるようになりました。また、3.11の原発事故直後も東日本地域以外の原
発が多く稼働していたので、地震が発生する度にまた原発事故の事が気になり、
次に原発事故が起きた時は終わりだという危機感を感じていました。自分が住む
場所から最も近い原発は上関原発だと思い、上関原発の建設が始まっていなかっ
たことを知り、ホッとしました。

4月3日 この頃には、経済が一旦ストップしても良いから日本全国全ての原
発の稼働を止めた方が良く考えるようになっていました。原発が何故必要なの
かを知りたいと思い、上関町を訪れました。中国電力発電所PR館の「みらい館」
を見つけ、職員の方に原発について教えて頂こうと幾つか質問をしました。「上関
原発は何故必要なのですか」と問うと「今後の中国地方の経済発展を考えて建設
が必要」とのことでした。また、風力や太陽光発電といった自然エネルギーにつ
いて問うと「発電量が少なく、膨大な土地が必要で効率が悪い」と言われていま
した。そこで見た子供たちが書いたポスターが印象に残っています。「未来を作る
原子力」、「地球に優しい原子力」と書かれたポスターです。福島原発事故を経験
した人達の中に、未来のエネルギー、地球に優しいエネルギーだと考える人はい
ないのではないのでしょうか。

私は山口県で生まれ育っているが、私が生まれる以前から祝島の人達が上関
原発の建設反対運動をしていた事を、福島原発事故後はじめて知りました。上関
原発は建設されるのが当たり前だと思っていました。今まで原発の建設に反対し
てこなかったことを反省し、これまで反対し続けてきた祝島の人達にお礼を言
いたいと思い祝島に行きました。祝島の人達が私の故郷の山口県や今住んでいる
広島県を守ってくれたのだという気持ちになりました。しかし、山の上から海を見
ると、そこからは四国電力の伊方原発が見えました。上関原発の建設もですが、
伊方原発が事故を起こした時も同じくこの島も、中国地方は終わりだと感
じました。

新聞やテレビ、世間一般でいわれることを無批判に信じてきたことを反省し、

原発や放射能について真剣に勉強しました。事故前は、原発はコストが安く大容量の発電設備だと思っていましたが、原発による発電は最もコストが高く、原発がなくとも電気が足りることを確信しました。私はこの国の原発は直ぐに全て止まると考えていました。友人や会社でも原発について積極的に話題にするようになり、2011年当初の私は頭がおかしくなったのではないかと心配された時期もありましたが、現在では世間一般の原発に対する危険性意識も変わってきており、仮処分で伊方原発の運転差止が決まった時には多くの人から喜びの声を聴きました。

こんな非人道的で非効率で危険な発電が許されるわけがありません。原発事故を想定した避難訓練が実施されていますが、たかが電気の為になんで人間が避難しないとならないのでしょうか。原発事故は、一般の工場の事故と異なり放射能を一旦外に放出してしまうと、お終いなんです。甚大な被害を及ぼします。福島原発事故から8年が過ぎましたが、放射能影響による避難者、土地の汚染、放射能による食品問題など未だに解決できないことが証明しているではないですか。

伊方原発で絶対に事故を起こさないことを約束してくれますか？放射能を敷地内から出さないことを約束してくれますか？

2年前に家を購入しましたが、仮に伊方原発が過酷事故を起こした時には、その家を手放し、今の仕事を諦めて避難します。それは自分の家族、自分自身の命を守る為です。伊方原発は四国、九州、中国地方に囲まれており、多くの生活があり、豊かな自然も多くあります。

私の子供達を含め、未来の世代に残していかなければならない生命・財産を守る為に伊方原発の運転差止を諦めません。

福島原発事故を経験した私達が原発を止めなければ、いつかまた同じ過ちを繰り返す事になるでしょう。憲法及び法律、そして福島原発事故という人災から学んだことを踏まえて頂いた上、良心に従い、独立して中立な場で公正な判決をして頂けることを切に望みます。

ご清聴ありがとうございました。